

炭酸ガスレーザーを使用した低侵襲霰粒腫手術

福岡 詩麻^{1,2,4)}, 有田 玲子^{2,3,4)}

大宮はまだ眼科西口分院¹⁾, LIME研究会²⁾, 伊藤医院³⁾, 東京大⁴⁾

【目的】以前我々は、霰粒腫術後に涙液が不安定となりドライアイのリスクが高まるという報告をした。最近、マイボーム腺を温存する霰粒腫治療が見直されているが、どうしても手術を要する症例もある。炭酸ガスレーザーによる低侵襲霰粒腫手術を施行したので報告する。

【対象と方法】対象は、2016年11月から2022年2月までに、炭酸ガスレーザーを用いて霰粒腫手術をした患者32例（男性13例、女性19例、平均年齢 39.8 ± 15.0 歳（17~71歳））。カルテ記載を用いてretrospectiveに解析した。

【結果】霰粒腫発症後、手術までの期間は3日~7年半（中央値74日）。結膜切開では15例全例、皮膚切開17例のうち4例では挟瞼器を使用した。レーザーで切開することで出血が極少量のため、アイシールド（12例）もしくは角板（1例）でも皮膚切開を問題なく行うことができた。2例で再手術を要した。手術時間は2~18分（平均 8 ± 5 分）であった。術前にステロイド注射を15例（47%）、術前後に温罨法を22例（69%）、リッドハイジーンを19例（59%）に施行した。術前に霰粒腫既往ありが15例、他院霰粒腫手術歴ありが6例、多発霰粒腫と術後別部位の再発を各12例で認めた。

【結論】炭酸ガスレーザーを用いた霰粒腫手術は低侵襲であり有用である。多発霰粒腫や再発を繰り返す症例は多いので、術後に温罨法やリッドハイジーンなど霰粒腫に対するマイボーム温存療法の指導をすることも重要であると考えられた。

【利益相反公表基準：該当】有

【IC：取得】有

【倫理審査：承認】有